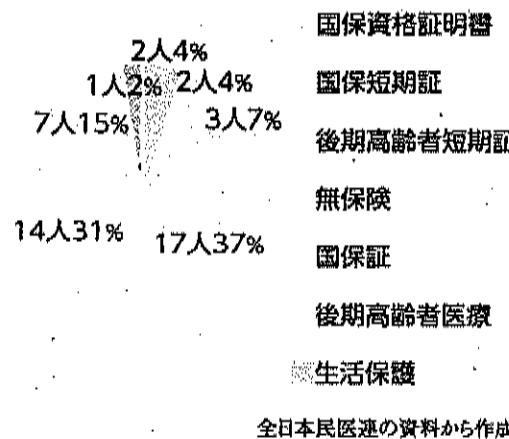


11/31 五曜

手遅れで死亡した人の受診前の保険種類



経済困窮の受診遅れ死亡

健康に不安があつても、経済的に困窮していて受診を遅らせた結果、病状が悪化して治療が手遅れになり死亡した。そんな事例を調査した全日本民医連は、29日に結果を公表しました。事例の詳細を見てみると、健康保険証がない人たちが全体の約4割にのぼり、その人たちには体調不良でも受診を我慢していました。

民医連調査から

60代男性は、19歳から45歳まで会社に勤務していましたが、人間関係を理由に退職。警備会社に住み込みで働きますが半年後に退職します。一時期ホームレスになりました。2015年以降は、アルバイトをしながらネットカフェ生活でし

無保険約4割

た。

21年7月中旬から体調不良を起こし、同8月下旬に、民医連加盟の事業所前で体が動かなくなり、そのまま入院。がんは末期の状態でした。所持金がなく、受診できず、病状が悪化していました。

50代女性は、ホームセンターでパート労働をしていました。手取りは月8万円ほど。母は介護老人保健施設に入所し、年金6万円で療を行います。

△無保険をつくらせない抜きの対策が必要△医療費の窓口負担をなくすべきだなどと指摘しています。

は購えない分を女性が払っていました。新型コロナウイルス感染症が流行し、仕事のシフトが減りました。保険料や住民税、水道料金を滞納していました。無保険で、体調不良でも医療費が払えないと受診を我慢していました。

窓口で払えぬ実態が

生活相談会を通じ、無料低額診療を利用して受診すると精密検査が必要だと言われました。医療窓口負担の減免申請をして、総合病院で検査を受ける予定でした。検査の日に女性は現れず、翌日、自宅で亡くなっているところを親戚と警察が発見しました。

全日本民医連の調査では、22年の1年間に46人が死亡。その内、17人(37%)が無保険でした。

また、保険証や短期保険証を持っていた人が半数以上だったことから、「窓口負担などが理由で受診できない実態が伺える」としています。

△調査はまとめとして、

「無保険をつくらせない抜きの対策が必要△医療費の窓口負担をなくすべきだなどと指摘しています。